

23年センター試験志願者数、 3年連続増の55.8万人前後か!?

—出願締め切り時点の志願者数は53万5,063人—

旺文社 教育情報センター 22年10月14日

来春の高等学校卒業者数は、昨春の18年ぶりの増加から再び減少に転じ、約106万3,000人と推測される。そうした中、23年センター試験の出願受付が、10月14日締め切られた。大学入試センターから発表された、同日17時現在の出願状況は以下のとおりである。

●出願総数 535,063人(526,406人; +8,657人、1.6%増)

<内訳>

○高等学校等卒業見込者 437,584人(429,651人; +7,933人、1.8%増)
(高等学校等経由出願)

○高等学校卒業者等 97,479人(96,755人; +724人、0.7%増)
(個人直接出願)

(注) 1. ()内は、前年締切日(21年10月14日17時現在)の志願者数、及び増加数と割合を示す。

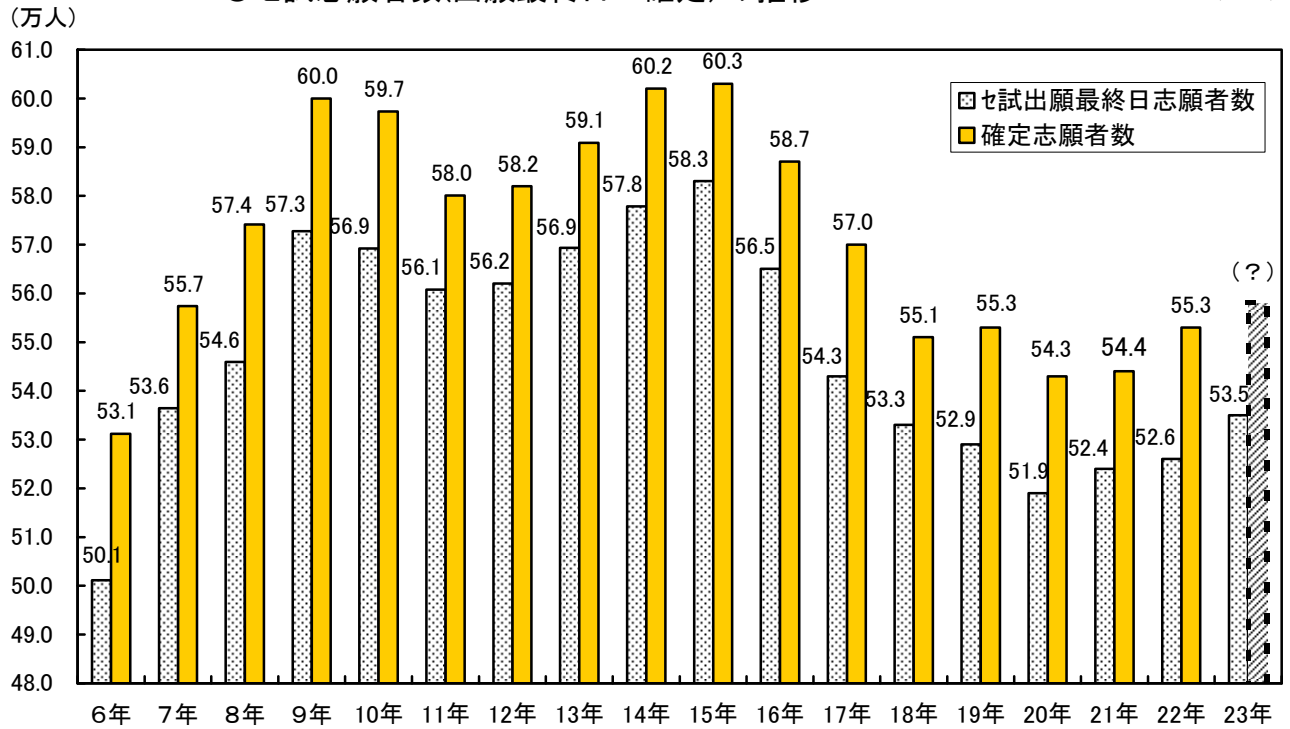
2. 22年10月14日の消印まで出願を受け付ける。

3. 重複出願等の確認、試験場の指定等を行った後、確定志願者数等の統計資料や試験場一覧が発表される(11月末予定: 22年確定志願者数は553,368人)

- 最終的な志願者数は、今後消印有効分の2万人前後が加わり、55万8,000人前後になるとみられる。これは22年の55万3,368人(確定)よりも4,000人程度増加すると予測され、3年連続の増加は確実のようだ。
- 来春の高等学校卒業者数が約8,000人、0.7%減少するとみられる中、志願者増の要因としては、センター試験出願の高等学校等卒業見込者(現役)の増加(22年より7,933人、1.8%増)を裏打ちする大学・短大への現役志願率の高まりや、公立4大学のセンター試験を利用する分離分割方式への参入、私立大のセンター試験参加増(9大学37学部増の503大学1,441学部。22年3月末現在)と短大の参加増(6短大増の166短大。同)に加え、不況下における国公立大志向の一層の高まりなどが挙げられる。
- また、高等学校卒業者等(浪人及び高等学校卒業程度認定試験合格者等)も724人(0.7%)増で、16年から7年連続の減少に歯止めがかかりそうだ。浪人の増加は、国公立大を中心とした一部の難関大学・学部を目指す、前年のセンター試験難化などで不本意入学した、所謂“仮面浪人”などの増加もあるとみられる。

●セ試志願者数(出願最終日&確定)の推移

(図1)



(図2)

(大学・学部/短大)

●センター試験を利用する私立大&短大;大学・学部、短大数の推移

